

閑話休題

83歳になって初めて知った話

山下 二男 予科6-9

(所沢市) 航空16-3

最近中隊会や歩こう会の原稿書き等ワープロ作業が多くなったが、その際、分からない語彙や読めない漢字が多々あり、漢和辞典や廣辞林にお世話になっている。特に手持ちの廣辞林は昭和初めの古いもの(三省堂発行昭和7年2月5日87版、定価3円90銭)で、紙全体は茶色になり、表紙も隅々が破損しており、それを布テープで補修して何とか使用している。某日、何げなく表紙をめくって見ると、その緒言の冒頭に“あつめおく 辞の林 ちりもせで ちとせかわらじ 和歌のうら松”「続千載和歌集」と記し、本文として「回顧すれば『辞林』の初めて世に出でしは明治40年の春にして、当時世界漫遊の途に上らんとする著者は、横浜埠頭安芸丸の船室に於いて漸く其最終頁の校正刷りを読み了り、倫敦に到着後始めて具装幀せられたる製本を手にしたるなりき。…以下略」とあり、その末尾には「大正14年8月望日、東京本郷曙町にて、金澤庄三郎識」と記されている。廣辞林の語源が前記の和歌にあることを知り、今にして思わぬ知識を得て好い気分を味わった次第。また、辞林の製本完成が明治45年で、初版発行が大正14年9月25日であり、小生の誕生6ヶ月前とは奇縁と云うか、廣辞林と共に生きているような気がして愉快である。